

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年6月24日(2010.6.24)

【公開番号】特開2009-155269(P2009-155269A)

【公開日】平成21年7月16日(2009.7.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-028

【出願番号】特願2007-335549(P2007-335549)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/36 (2006.01)

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

A 6 1 K 8/20 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

A 6 1 Q 19/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/36

A 6 1 K 8/37

A 6 1 K 8/20

A 6 1 K 8/19

A 6 1 Q 19/08

【手続補正書】

【提出日】平成22年4月28日(2010.4.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

実施例1

皮膚は角化とともに細胞膜を蛋白質で裏打ちしてコーニファイドエンベロープを形成していく。この折、角化とともにコーニファイドエンベロープの成分として生成される蛋白質として抗菌力を有するソラヤシンが知られている。本試験ではこのソラヤシンの遺伝子発現量を指標として、カルシウム塩と酪酸塩の組み合わせによる角化への影響を検討した。

<試験方法>

4系代目の人包皮由来ケラチノサイトを6ウェルのプレート1ウェルあたり2.25×10<sup>5</sup>個播種し、3日間培養(37℃、95%Air、5%CO<sub>2</sub>)して70%コンフルエントにする。そして、CaCl<sub>2</sub>(0.062~0.5mM)、酪酸ナトリウム(0.03~1mM)或は両方CaCl<sub>2</sub>(0.062~0.5mM)と酪酸ナトリウム(0.03~1mM)を加えて、48時間で培養する。その後、上清を捨てて、細胞を完全に溶解する。全RNAを抽出し、RNAを逆転写してcDNAを作成し、定量リアルタイムPCRを用いてソラヤシンの遺伝子発現量を検出した。

<試験結果>

結果を図1~4に示す。

その結果、塩化カルシウム及び酪酸ナトリウム単品ではほとんどソラヤシンの遺伝子は発現していないにもかかわらず、2成分を組み合わせることによって遺伝子発現量が飛躍的に増加することが明らかとなった。